

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610310108		
法人名	医療法人 道志社		
事業所名	グループホーム小松島		
所在地	徳島県小松島市田浦町近里84-2		
自己評価作成日	平成24年9月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階
訪問調査日	平成24年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>体力の低下を防ぐため、毎日体操・廊下の歩行訓練をしている。散歩にもよく出かけている。デイサービスを行っているので、満床のときはディに来て頂き、慣れてから入居する事が出来る。学習療法を取り入れて希望者には取り組んでもらっている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、幹線道路から少し入った場所に位置している。同一法人の運営する医療機関と併設している。毎朝の申し送り時に、管理者と全職員で、事業所の理念“家庭の温もりと優しさそして地域と共に”を確認し、日ごろのケアに繋げている。全職員が、家庭的な温もりを大切に支援しており、利用者に寄りそう時間を多く取り入れて日ごろの支援を行っている。また、事業所では食事に力を入れており、毎食、季節にあわせた自慢の手づくり料理を提供している。地域との交流も盛んに行っており、地域の小学校の運動会では、利用者が参加する特別なプログラムを加えてもらったり、月1回、地域の清掃活動へ参加したりしている。事業所内は、清潔で快適な環境を整備しており、季節行事の写真や利用者の作品を廊下やホールに飾っている。また、利用者職員で、大根やブロッコリーなどの野菜の栽培に取り組んでおり、家庭的な雰囲気なか、利用者一人ひとりに応じた支援を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『家庭の温もりと優しさそして地域と共に』と言う理念を常に頭に置き頑張っている。毎朝朝礼時に唱和している。	事業所では、申し送り時に理念を唱和している。職員間で理念を共有し、日ごろのケアへ繋げている。玄関や事務所に理念を掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩時等に近所の人を見かければ声を掛けたり挨拶したりしている。隣のお弁当屋さんとは行事の度にお弁当を注文しいざと言う時には助けをお願いしている。近くの大型スーパーにお買い物又はウインドウショッピングに1回/月行っている。	日ごろから、利用者は、散歩や買い物へ出かけており、近隣の住民と挨拶を交わすなどして交流を図っている。地域の幼稚園と七夕等の行事の際に交流している。月1回、地域の清掃活動を行うなどして積極的に地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	最初の頃とH18年の2回地域の人に集ってもらいグループホームについてや認知症のことについて説明した事があります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回第4月曜日に運営推進会議を開催している。役場の職員が毎回会議に参加してくれてその時に介護保険上の分からない事や相談に乗ってくれています。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の取り組みやサービスの現状等について話しあっている。他事業者の参加も得ており、ボランティアや地域行事等に関する情報を交換する場にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の職員とは手渡しで書類を持って行っているのが顔なじみになっている。運営推進会議には毎回出席して頂いてアドバイス等を頂いている。	毎月、市担当窓口へ出向いて、事業所の活動報告書や関係書類を提出している。担当者から研修会の情報を得ることもあり、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、午前中は職員が忙しいため施錠し、午後は開けるようにしている。不穏な方が居れば、近くを散歩したりして気をまぎらしている。	職員は、事業所の内・外の身体拘束に関する研修を受講している。道路に面していることなどから、安全面等に考慮し玄関を施錠している。	利用者の安全面に留意しつつも、自由な暮らしを支援するため、全職員で開鍵に向けた検討を繰り返し行い、施錠がつねとなることのないよう取り組まれない。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者に対して虐待はしておりませんが、言葉遣いには気をつけたいと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	青年後見人制度については該当者が居ないので勉強できていないか今後取り入れる必要はあると思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は十分な説明と行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関でご意見箱を設置し、何でも言いたい事を書いて入れるように説明している。	日ごろの利用者との関わりのなかで、要望や意向の把握に努めている。また、介護計画書の作成時や面会時に、家族からも意見を聞くようになっている。玄関に意見箱を設置し、利用者や家族が意見を表出しやすい体制を整備している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	決め事がある時はグループホームミーティングを開き、その時に決めるようにしている。	管理者は、2か月に1回の法人会議や事業所内のミーティング、年2回の人事効果、個人面談時等に、職員から意見を聞いている。出された意見は、日ごろのケアに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職員の査定を行い給料の額が決められている。処遇改善加算を取り入れるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修には毎回職員が参加し、認知症のケアの向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議には、それぞれのグループホームの管理者が出席し交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で詳細に生活状態を聞き、本人様がどうしたら良いか等を考え、理解できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	先に家族の要望等を聞いてから、職員間で話し合い対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時点で何が必要かを充分に見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方に合った出来るお手伝い(食器洗い・掃除・花の水やり・洗濯物たたみなど)をして頂き、感謝の気持ちを持って入居者に接している。皆さんが協力し合って喜んでされている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事で外に行く時などは家族の方にも声を掛け一緒に行って頂いている。外泊・外出も本人や家族の希望で自由にしてもらっている。携帯電話も本人様のなら自由にかけられている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内での交流、また外部からの友人との交流は大いに支援している。	事業所では、利用者の馴染みの美容室等への外出を支援している。地域の方や知人の来訪時には、気兼ねなく過ごしてもらえるよう配慮している。また、馴染みの関係を継続することができるよう家族とともに支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングの席もすぐ決めず、その人がどんな人と同席した方は話しやすいか早急に見極めて、まんべんなく関わり合えるようにしており、現在ベストな雰囲気である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された利用者の近況を把握し、可能な限り関係を維持できるよう努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いやりや意向を日々の関わりの中で声掛けをして把握に努めている。	食事前に、利用者と職員が寄りそう時間を設けている。利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、日ごろの支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴やサービス利用に至った経緯を理解して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい暮らし方を支援して、出来る事・分かる事を発見していくことに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中で、本人や家族の方に想いや意見を聞き職員で意見交換し、介護計画を作成している。	職員は、本人や家族の希望・意向を聞いている。担当者会議を開催し、利用者本位の介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護日誌・観察記録があり、利用者の状態変化を職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のニーズに応じて臨機応変に支援できるよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月2回、運営推進会議のメンバーが事業所を訪れ入居者の話相手や相談相手になってくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間ごとに外来受診の支援を行っている。また、本人や御家族の希望に応じて通院の支援を行っている。	事業所では、医師による定期的な受診の支援体制を整備している。家族の協力を得たうえで、かかりつけ医の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師の資格を保有しているため、常に利用者のけんこに状態に応じた対応を行っている。管理者が不在の時は、マニュアルに従い対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院によるダメージを防ぐため医療機関の関係者と協議の上、事業所での対応が可能になった場合、なるべく早く対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、医療機関・職員・御家族と連携を図りながら支援している。	入居時の段階で、書面を介して終末期に関する説明を行っている。利用者が重度化や終末期に至った際には、医師や家族、職員で状態変化の情報を共有し、連携を図りつつ支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応のマニュアルを作り実践している。病院内・病院外の研修にも全職員が参加し学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルを作成している。月1回、消火訓練や避難訓練を実施している。津波時に1階から2階まで避難するのにどのくらい時間がかかるのか実践している。	災害対策マニュアルを作成し、年2回、避難訓練を実施している。災害時に備え、1日分の非常食を事業所内に備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人權を尊重し、プライバシーも尊重し、一人ひとりの人格を損ねないように努力をしている。	年1回、母体法人で開催する個人情報保護等に関する勉強会に参加している。全職員が、利用者の人格やプライバシーを尊重したケアに留意し取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望や思いが叶うよう意見を聞かせてもらうようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの1日の暮らしをどうすれば満足してもらえるか、個人個人の希望に聞いて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の希望を聞き、移動美容室でカットやパーマをされている。毎日、お化粧をしておしゃれを楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の残存能力を活かしながら食事の片付けや食器の荒い物してもらっている。毎日のメニューをリビングのボードに書き、食事の楽しみを持ってもらっている。	事業所では、誤嚥防止等のため毎食前に口腔体操を行ったり、食事が楽しいものとなるよう和やかな雰囲気づくりに留意したりしている。畑で育てた季節の野菜を食材に用いるなどして、食事が楽しいものとなるよう工夫している。また、利用者の身体状況に応じて、片づけなどの役割を担ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分量や食事の摂取量を記録している。好き嫌いのある方には食材を工夫して食べられるように作り支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方には職員が付き添い口腔ケアをおこなっている。自力で出来る方は声掛けし、終わるまで見守っている。また、夜間時はポリドントに義歯をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見計らって声掛けをしトイレ誘導を行い、出来るだけトイレで排泄出来るように支援している。	利用者一人ひとりの身体状況に応じ、トイレへの誘導方法を工夫している。事業所では、利用者一人ひとりの自尊心に配慮しつつ、自立へ向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめな水分補給と毎朝の廊下歩行を取り入れて工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の気分や体調に合わせて、午前・午後に入浴を行っている。	利用者一人ひとりの体調や希望を優先し、1日中入浴が可能な体制を構築している。また、リラックスして入浴を楽しむことができるよう、入浴剤を活用するなどの工夫を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの睡眠パターンを把握し、温度調節・トイレ誘導・パット交換などを行い、その都度対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の体調に変化が見られる時や処方や用量が変更された時は、その都度記録をするようにし、変化にも敏感に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の体調に合わせて掃除機掛け・食器洗い・机拭き・洗濯物たたみ等、出来る事を手伝ってもらっている。レクリエーションでは、歌ったり塗り絵をしたりして楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を感じて頂くために色々な行事・お祭り・運動会などに参加している。また、気候に応じて散歩にも行っている。	年間を通じて様々な行事を企画しており、外出の機会も多い。お弁当をつくって公園へ出かけたり、地元の運動会に参加したりして、利用者一人ひとりが地域と交流しつつ楽しむことができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ユニット1 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所の金庫に保管しており、買い物や売店へ行きたいという希望があればそれに応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、それに応じていつでも事務所から電話がかけられ自由に会話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によっては、冷暖房をつけて、季節を感じられるような花などを飾り、少しでも過ごしやすく落ち着けるような空間を作って工夫している。	玄関や廊下、食堂等の共用空間には、行事の写真や手づくりの作品等を飾っている。カラオケ機材等も導入している。家庭的で居心地のよい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが個室になっているため、自室にてテレビを見たり、読書したり、自由に過ごしている。リビングで利用者同士の会話を楽しむ方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの品を自室に持ち込んで、居心地良く過ごしている。	利用者は、居室に使い慣れた衣装ケースやTV等を持ち込んでいる。本人が暮らしやすいよう家具等の配置にも留意している。自分のベッドを持ち込んでいる利用者もあり、一人ひとりにあわせた居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者は分かるように、洗面所・トイレ・風呂等の表示に工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日頃から理念を念頭におき、家庭的な雰囲気の中で穏やかに過ごせる様支援している。急がず見守る気持ちで利用者と接している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の運動会に参加している。また、隣接する他の介護サービス事業所の夏祭りや文化祭に出席したり、散歩に出掛けて地域の方に声掛けを行うなどして交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々に事業所に来てもらい、グループホームについて説明している。認知症の人がいたら、いつでも相談に応じることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催している。家族や地域住民・地域包括支援センター職員・市職員・協力医療機関・職員の参加がある。行事報告や支援の内容について話し合っている。災害時の対応についてアドバイスももらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へ書類を直接持参している。市担当者との交流を図り、何でも相談できる関係を築いている。市担当者の人事異動の際にも、連携を図りながら協力関係の維持・向上に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の強い人はエレベーターの操作や階段の柵を持つての上り降りを見ているので、エレベーターは使用後すぐにスイッチを切る。階段は最上部にドアを付け、階段側から開けるようにしている。願望の強い時は職員が一緒に外に行って散歩したりして納得されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待の内容の研修に出席して職員全員に話をして虐待防止に力を入れて利用者の方が安全に楽しく穏やかに過ごせる様、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度を利用している利用者はいない。今後のために、研修会があれば出席する体制を整えている。今年は2名の職員が市の研修会に出席している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に安心感を持ってもらえる様。また、相手の方が話しやすい雰囲気を作り、質問を傾聴し十分に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが投稿はない。家族の来訪時に、希望や不満・不安に思うことなどを聞いている。運営推進会議に家族の参加があることから、意見や要望を表しやすい雰囲気づくりに配慮している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全職員でミーティングを行い、職員間の意見交換やアンケートを実施し、待遇改善や運営改善に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、自己評価表等に記入してもらい各自の向上を促している。職員間のトラブルも無く助け合って日々業務に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内・院外の研修に必ず一年間に全員の職員が出席するよう努めている。受講や研修に時間が使える。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所とは常に連絡しあい、月一回は会って経営の事・入居者様の対応の事・ボランティアの事等について意見の交換を行っている。また、運営推進会議には相互に出席しあっている。もっと広げていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時のアセスメントで過去・現在に至る生活状況を把握し、情報を職員で共有し慣れない利用者の方が安心して生活出来るように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が求めている事を理解し、どのようなサービスを提供していけるか事前に話し合いをしている。面会に来られた時にも気付いた事・要望がないか常に対話を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は、本人や御家族の事情や要望を基に、その時点で何が必要か充分見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は一緒に生活しているという意識を持ち、出来るだけ無理のない程度に生活面でのお手伝いをして頂き、楽しく日常生活共有していけるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は御家族の利用者の方への想いを充分に知り、お互いに利用者の生活を支えていっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が来られた時は、お茶を出したり話をしたりして居心地の良い場を提供し、気軽に出入り出来るような雰囲気作りをしている。また、御本人の行きたい場所を聞き、行っています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション・食事等の時、仲に入り入居者同士顔を合わせ気軽に挨拶し孤立しないようにしている。入居者同士が共に楽しく会話できるように良い雰囲気づくりのお手伝いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方に電話したり、お見舞いに行って相談に乗ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時は本人の思いを傾聴し、希望に添ったケアを提供し困難な場合は御家族や本人との話し合いもしている。また、ドクターやリハビリの先生等にも尋ねている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方々や入所までに関わった人達から情報を頂いたり、本人から情報を聞きだす。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自暮らし方が違うので、本人の残存能力を生かした生活や出来るお手伝いを喜びを持ってしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者及び御家族の思いや意見を聞き、入居者全体の暮らしを反映し、残存能力を生かす。また、ご本人の想いを生かした介護計画になるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや入居者の状態変化は、個々の介護観察記録に記載し職員間で情報を共有しながら定期的に又、臨機応変にカンファレンスを行い、介護計画の見直し、評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望に応じて広く社会貢献を活用して必要なサービスを提供している。ショートステイ・通所サービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	インターネットや知人・同業者の方々から広く地域資源について聞き、入居者の生活向上に役立っている。介護指導員の方も月2回来てくださっている。個人においては公文学習療法も行っている。(週3回)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に馴染みの医療機関を聞いて受診していただいたり、月2回の母体法人の医療機関の回診を得たり、外来受診もしている。また、御家族様が行けない時はホームの看護師が付き添い受診している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師の資格を保有しているため、常に利用者の健康管理や状態に応じた対応を行っている。管理者が不在の時は、連携機関から指示をいただき行動している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による心理的ダメージを防ぐため、医療機関等の関係者と協議の上、事業所での対応が可能になった場合には、なるべく早く退院出来るように対応している。連携機関が対応出来ない場合は、院長と相談して他病院へ紹介をしていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にターミナルケアについて説明し、ある程度知識を持ってもらい、途中で状態が変わった時は、本人・御家族と充分話し合いを行い全職員が共有し取り組んでいく。現在、ターミナルケアは御家族様の協力が必要な事を知っている御家族が少ない。(説明不足・契約書を読んでおられない)		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は院内・院外の研修に参加し知識を得、すぐに対応出来るようにシュミレーションを行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルを作成している。月一回消火訓練や非難訓練を実施している。消防署からの防災訓練も行っている。地域の施設の方達とも話し合いが出来ている。津波時、1階から2階へどれだけの人がどれだけの時間で上がれるのか訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を把握し、誇りやプライバシーに配慮しながら色々な事があっても入居者の人格を傷つけないよう職員全員が心掛けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から表現出来ない利用者も居るので、職員が傾聴し本人の希望が可能になる様工夫し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買い物に出掛けたり、皆で歌ったり廊下を歩行したり、話が好きな入居者とは1対1になり話を傾聴したりして、入居者の希望に添って出来る限り支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段は通常の服装だが、行事がある時は化粧したりマフラーを捲いたり新しい服に着替えたりして外出している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝・昼・夕のメニューを書き出し、利用者に説明して前もって食事に楽しみを持ってもらっている。時々希望を聞き、メニューの変更もしている。テーブル拭きのお手伝いもお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自量も好き嫌いも違うので、説明したり声掛けしたりして個々に合った摂取をしていただいている。水分の摂取量は記録している。水分摂取量の極端に少ない方は、御家族に好きな物を聞いてジュース・プリン等を食べていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後一人ひとりの口腔ケア状態や力に応じて口腔ケアをしている。声掛け・見守り・介助と様々な対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の行動や素振りを見てトイレ誘導をして、なるべくトイレにて排泄してもらうように心掛けている。時間を決めて誘導している方も居ます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	温野菜にしたり、繊維の多い野菜を使ったりして摂ってもらい、散歩や体操・レクリエーションなどで運動してもらい便秘の予防をしている。ヨーグルトを摂取される方も多くなった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中のあまり気持ちが不穏にならないうちとか便失禁後の入浴、夕食までの入浴と入居者のその時の状況に合わせて入浴してもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の日常生活の中で昨夜は眠れているか否かで昼の休息と取ってもらったり、夜は早く休んでもらったりと一人ひとりに気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の内容を把握している。薬の処方や用量の変更時点で他職員にきちんと申し送りをしている。、状態悪化が見受けられた際などには、その都度記録し、協力機関との連携のもと支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦の中から利用者一人ひとりの得意分野を把握して、無理強いをせずお手伝いしていただく。利用者も何か分からずとも役に立ちたいとおもっている姿が見られる。生活が生き生きとされる様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季折々の花見情報を入手して各地へ出かけ、気分転換を図っている。また、家族の協力の下、祭りや地域の行事に参加している。天気の良い日には散歩やショッピングに出かけたりして笑顔の見られる生活を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ユニット2 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自分で管理出来る方はしてもらっている。困難な方は事業所で預かり一緒に買い物に行き、レジで一緒に支払いをしている。お金の大切さを体感してもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話や手紙の支援は、本人の意向を受け支援している。職員が取り次ぐことで自由に通話出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は日当たりが良く明るい。玄関前には季節の草花を植えたり、建物の隅々には観葉植物を置いている。廊下には、利用者の作品が飾られ来訪者の心が和むよう気配りしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者はいつも数人で一緒にソファに座って過ごされている。リビングには畳の間があり、そこで足を伸ばしたり洗濯物をたたんだりして入居者が利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	押入れは広く、機能性と安全性に配慮している。馴染みのある物や使い慣れた物品を持ち込み、落ち着いて過ごせるような空間を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、各々の部屋の利用者に合った表示、風呂の表示、洗面所の表示、又、入居者と一緒に作った物で飾りつけ、安全に生活出来るように工夫している。		